

同時改定対応戦略 No.10 目次



要旨

2020年度からの制度改定に対応するためには、現行の地域連携体制の見直しが必要であり、機能する地域連携体制とするためには、病棟看護職、薬剤師、事務担当者、そして経営管理者のこれからの取組みに関して解説しています。そして、これからの具体的な構築では心不全患者さんに対する業務設計をしていく理由などを解説しています。

新たな連携体制の構築 [01.30~02.40]

すでに連携業務は動き出していると思いますが、敢えて「新たな連携体制」について解説をします。

これから本格的に動き出す制度改革に対応できる新たな連携体制とは、2020年度の報酬改定で始まる実績評価に対して、地域の全ての医療介護関係者の間で、3つの要点が連携業務で円滑に機能している体制です。

現状の地域連携体制の検証 [02.40~06.45]

- 各病棟で設定されている入退院支援の担当者と病棟看護職員との連携業務の検証
- 確実な服用を実現するためのモニタリングや服薬に関する個別支援計画の連携の検証
- 実績評価が適正にできるための記録等の業務検証と連携業務の稼働状況の検証

新しい地域連携体制の担い手 [06.45~09.16]

- これから5年~10年後を見据えて、30代~60代の中堅から部署管理者が中心となって、連携体制を構築していくことについて
- 職種は、病棟看護職と薬剤師と事務担当者と経営管理者である

病棟看護職の地域連携体制構築の役割 [09.16~11.00]

- 心不全の診療ガイドラインからの具体的な看護サービスの設定
- 薬剤師との密接な連携業務
- トータルコーディネーターとしての病棟看護職の役割

薬剤師の地域連携体制構築の役割 [11.00~12.20]

- 心不全の診療ガイドラインからの薬学的管理業務の構築
- 病棟看護職との密接な連携業務
- 退院後の「かかりつけ医」等との連携業務

事務等の担当者と経営管理者の地域連携体制構築の役割 [12.20~16.30]

- 保険請求管理業務、実績管理業務、診療情報管理業務、収支管理業務と現場と一体化した連携推進の役割
- 経営会議に出席している経営管理者の地域の医療介護連携体制構築の中での院内の組織マネジメント

心不全患者に対する地域連携体制の構築 [16.30~24.42]

- 心不全患者に対する地域の医療介護連携の必要性について
- 心不全患者のステージA~Dのそれぞれでの個別支援計画の必要性の概要
- 今後の心不全患者に対する業務Modelの作成プロセス